

名ズアッポ
飯盛城
2019

題字：甲斐規予子

調査報告会資料集

日 時：令和元年7月20日（土）午後1時～午後4時30分

会 場：四條畷市市民総合センター 市民ホール

四條畷市教育委員会

大東市教育委員会

四條畷市立歴史民俗資料館

大東市立歴史民俗資料館

クローズアップ 飯盛城 2019

題字：甲斐規予子

●報告

「もっと知りたい飯盛城」―石垣編―

13:05 ～ 13:45

李 聖子（大東市教育委員会）

「飯盛城『御体塚』の新事実」

13:50 ～ 14:30

―『御体塚曲輪』、石垣の調査―

實盛良彦（四條畷市教育委員会）

休 憩

14:30 ～ 14:45

●記念講演

「発掘で明らかになった飯盛城」

14:45 ～ 16:15

中井 均（滋賀県立大学教授）

質 問

16:15 ～ 16:25

飯盛城は、大東市と四條畷市にまたがる飯盛山（標高約 314 メートル）に築かれた東西 400 メートル、南北 700 メートルの城域で、大小 100 以上の曲輪が南北の稜線上と東西の尾根上に築かれている大阪府下最大級の戦国時代の山城です。織田信長の安土城に先立って 50 か所以上に石垣を多用しています。

木沢長政、守護畠山氏、安見宗房などの武将が在城し、永禄 3（1560）年から永禄 7 年まで三好長慶が居城とし、当時「天下」と呼ばれた京や畿内一円、その周辺の国々を治めました。

クローズアップ飯盛城 2019 調査報告会資料集

発行日：令和元年（2019）7 月 20 日

四條畷市教育委員会
大東市教育委員会
発 行：四條畷市立歴史民俗資料館
大東市立歴史民俗資料館



赤色立体図 / 測量・図化 アジア航測株式会社

『もっと知りたい 飯盛城』 - 石垣編 -

大東市教育委員会
李 聖子

1 はじめに

国史跡指定を目指して平成 28 年度～平成 30 年度に測量調査・分布調査・発掘調査を実施。平成 29 年度の調査では山を切り盛りする大土木工事によって曲輪を造成し、飯盛城が築かれていることを明らかにした。平成 30 年度に実施した分布調査・発掘調査では多くの地点で石垣を確認し、「石垣づくりの城」の姿が浮かび上がってきた。今回は飯盛城を特徴づける石垣に焦点を当て、調査成果を報告する。

2 石垣調査

1) 分布 (図 1)

- ・城域内の石垣 約 80 か所 (近代以降に築かれた石垣を含む)
- ・飯盛城に伴う石垣 約 50 か所
- ・Ⅰ郭 (高櫓郭) ～Ⅵ郭を中心とした北側曲輪群の東側斜面 (Ⅴ郭・御体塚郭周辺、Ⅰ郭周辺、曲輪群 B、曲輪群 E) に集中し、西側斜面やⅧ郭 (千畳敷郭) を中心とした南側曲輪群には比較的石垣が少ないという現状
 - ⇒Ⅷ郭 石垣 88 (図 2) を確認後、規模・構造などを確認するため発掘調査を実施
 - ⇒曲輪群 B (図 3～図 9) 曲輪を取り巻く石垣の状況を確認

2) 規模・形状

- ・石垣 1 総延長 24 m、高さ 2.6 m、勾配約 80°
- ・石垣 88 延長 推定 30m、高さ 3 m 以上、勾配 75° ～ 80°

3) 特徴 (図 10)

①勾配 ②隅角の形状 ③段築によって築く ④野面積み ⑤巨石の利用 ⑥背面構造

4) 石垣石材の採石 (図 11～図 13)

1 露岩と石垣

- ・飯盛城が築かれた飯盛山→花崗岩 (四條畷花崗閃緑岩) の山
- ・石垣が築かれている場所の上方の斜面には花崗岩の露岩が見られる

【花崗岩】主に長石・石英・雲母からなる火成岩。

生駒山地の花崗岩が徳川大坂城再築の石垣に用いられた。

2 花崗岩の特徴

節理 (図 11) と呼ばれる規則正しい割れ目が発達し、大きな岩塊が得られる

→① 50 cm～2 m 程度の間隔で六面体のサイコロ状に割れる節理 (図 12)

② 20 cm～50 cm 程度間隔で板状に割れる節理 (図 13)

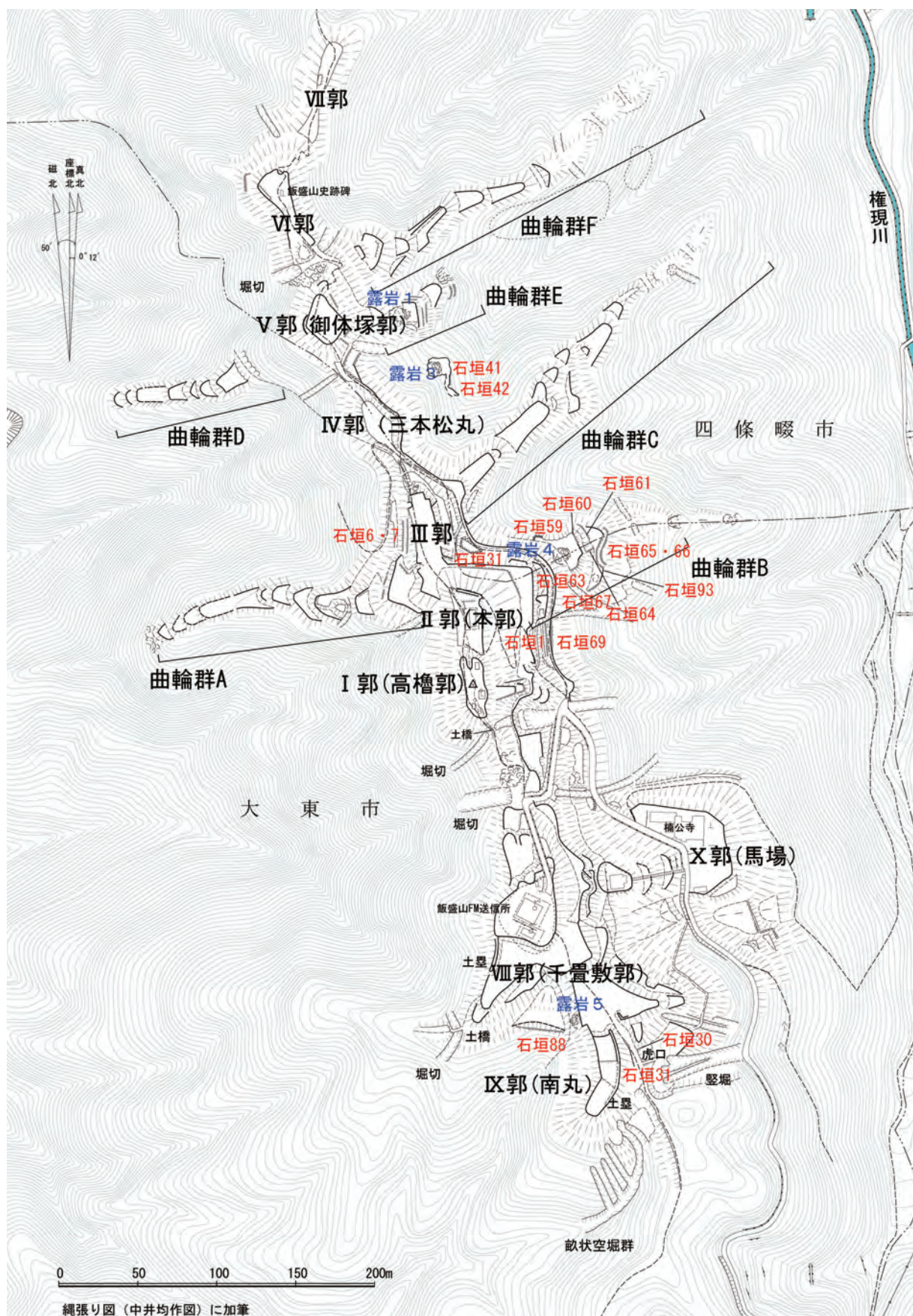


図1 飯盛城跡 主な石垣の分布



図 2-1 発見当初の状況



図 2-2 発掘調査前の草木の伐採



図 2-3 発掘調査時



図 2-4 石垣の積み方・構造などの検討



図 2-5 石垣 88 平面オルソ写真・立面オルソ写真

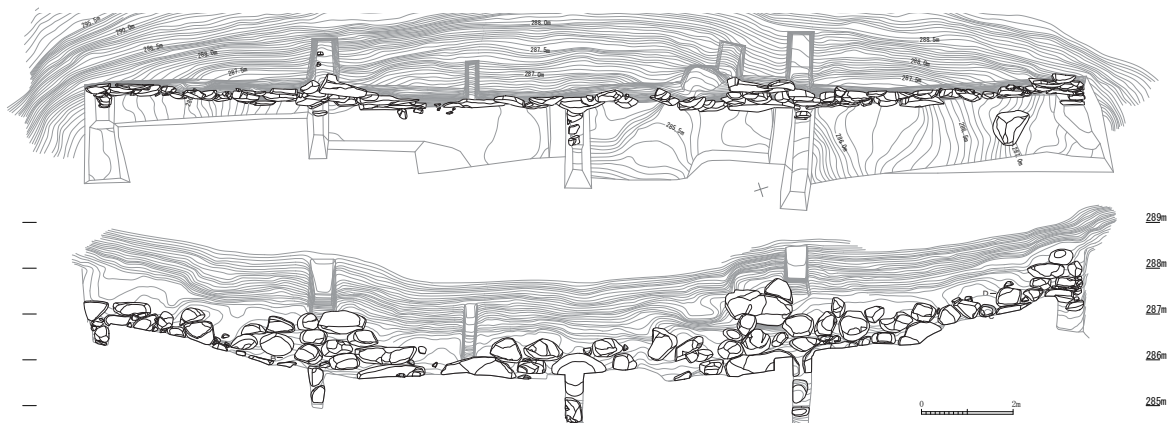


図 2-6 石垣 88 平面図・立面図

図 2 石垣 88 の調査

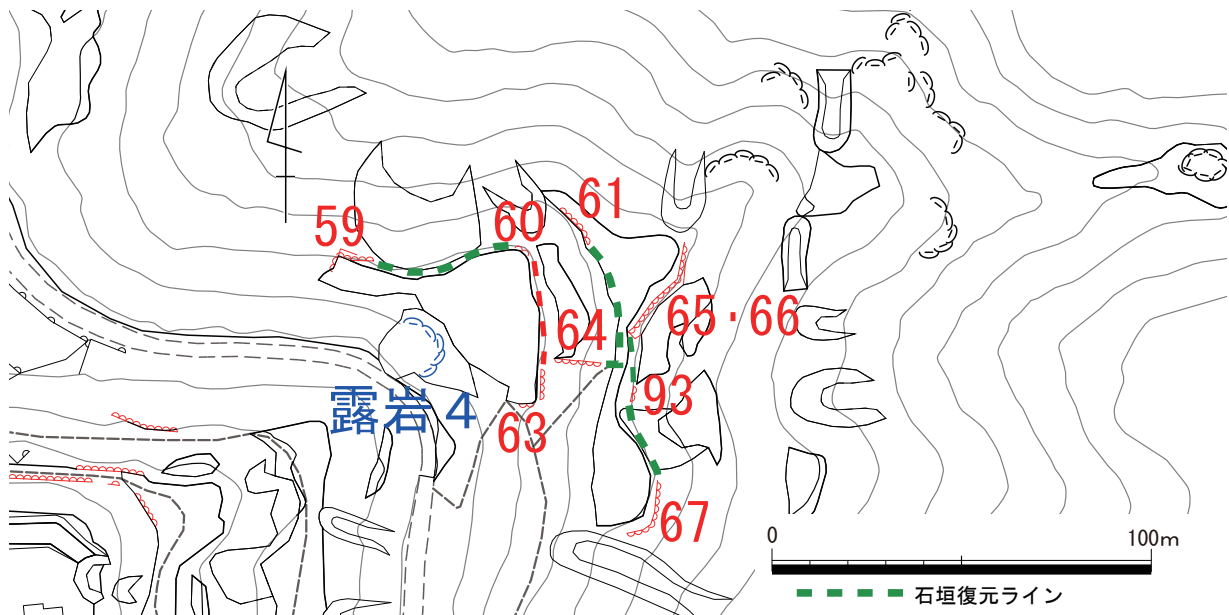


図3 曲輪群B 石垣分布図



図4 石垣 59



図5 石垣 63



図6 石垣 64



図7 石垣 61



図8 石垣 67



図9 石垣 65・66

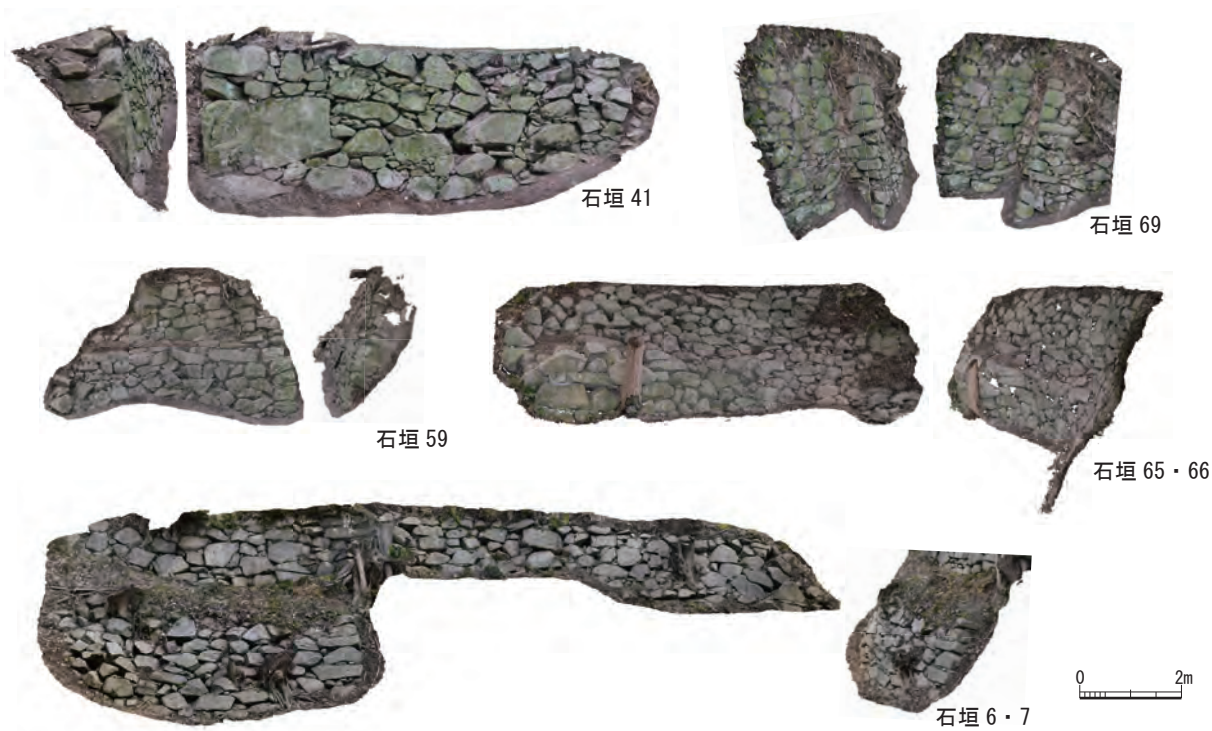


図 10 石垣写真合成図

節理（規則正しい割れ目）

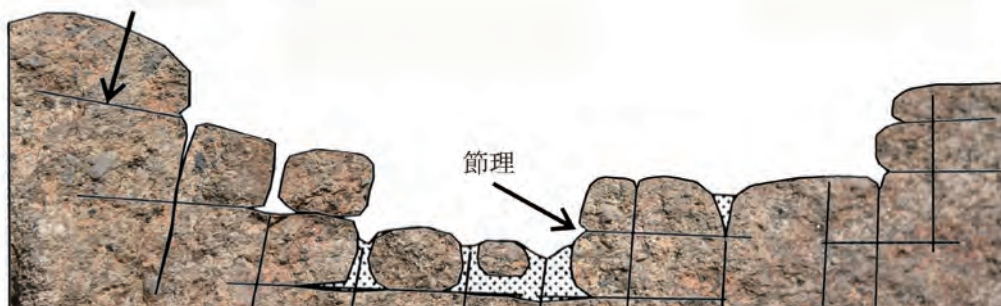


図 11 花崗岩の節理



図 12 露岩 5（サイコロ状の節理）



図 13 露岩 4（板状の節理）

3 まとめ

- ・ 石垣を各地点で確認したことから、東斜面に限らず城域全体に石垣が築かれている可能性が高い
- ・ 石垣の分布と特徴から、三好長慶が整備した飯盛城は織田信長が築城した安土城に先行する本格的な「石垣づくりの城」といえる

飯盛城^{ごたいづか}『御体塚』の新事実 —『御体塚曲輪』、石垣の調査—

四條畷市教育委員会

じつもり
實盛 良彦

1. はじめに

三好長慶^{みよしながよし}は、天文18（1549）年から室町幕府 13 代将軍足利義輝^{あしかがよしてる}を追放して京都を支配し、畿内・四国にわたる 11 カ国を支配した戦国大名です。近年、織田信長に先駆けた**天下人**と評価されています。**飯盛城**^{えいろうく}には永禄 3（1560）年に高槻の芥川山城^{あくたがわさんじょう}から移りました。永禄 7（1564）年に、長慶は城内で没しますが、飯盛城は、永禄 11（1568）年に織田信長が京都に入るまでの間、**畿内政治の中心地**となりました。



図 1 三好長慶
(大徳寺聚光院蔵)

平成 28 年度から、四條畷市教育委員会・大東市教育委員会では飯盛城跡の本格的な調査に入り、昨年度の大東市側の調査についてはこれまでに話があったとおりです。ここでは、四條畷市側の調査について概要を述べたいと思います。

2. これまでの調査概要

飯盛城内のやや北寄り、飯盛山頂上の曲輪群の中で全域が四條畷市域となる最初の曲輪が、**御体塚曲輪**^{ごたいづかくるわ}です。この曲輪の標高は約 287m で、中央やや西寄りに露岩^{ろがん}が盛り上がるように存在します。この曲輪は、三好長慶が永禄 7（1564）年に没した際、その死を秘すため仮埋葬された場所と伝えられてきました。

四條畷市域では大東市域の千疊敷^{せんじょうじきくろ}曲輪のように面積のある曲輪がないため、当初は石垣の構造を明らかにすることを主な目的に、平成 28・29 年度に御体塚曲輪周辺の**石垣の調査**に入り、次のようなことがわかりました。

- ① これまで目視で確認していた**石垣を積み上げる角度**が、測量図面を作成す

ることにより**ほぼ垂直**に立ち上がっていることを確認した。

- ② 御体塚曲輪の東側に派生する尾根上の曲輪にある石垣（石垣 23～26）は、セットバックをしながら**3段以上の石垣**が曲輪の**前面を取り巻いて**いた。
- ③ 石垣 18 のトレンチから**瓦片**が出土していることから、その上部の**御体塚曲輪に建物**があった可能性が考えられる。

このように御体塚曲輪の上に建物が存在した可能性が出てきたことから、平成 29 年度には石垣の調査に加え御体塚曲輪の発掘調査を行ないました。

- ・多くの土器とともに、**銅銭**、**中国製の高級磁器**、**建物に使われた瓦**、**塼**^{せん}（レンガ）、**壁土**、**鉄釘**^{かべつち}などがみつかった。
- ・瓦や塼から御体塚曲輪には**何らかの建物**があった可能性が高くなった。
- ・鉄釘は**建物**に使われた可能性と、**調度品**に使われた可能性がある。
- ・この時代に類例のない**台付きの灯明皿**^{とうみょうざら}があり、特殊な用途が想定される。

しかし、建物の規模や性格については、不明なままであったため、平成 30 年度は建物の存在を確認することを目的に、調査を行ないました。

3. 御体塚曲輪の発掘調査

建物の存在の確認を目的に、平成 29 年度のトレンチの南側にトレンチを設定し調査した結果、次のことがわかりました。

- ・**塼**^{せん}（レンガ）を土壁の裾に貼り付ける**塼列建物**^{せんれいつたてもの}（塼貼建物、約 4 × 6 m）を確認した。

- ・塼列建物と同じ方位の**石組み**を確認し、**建物の基礎**の可能性がある。

- ・建物の上部構造は出土遺物から**土壁**^{つちかべ}、屋根は**棟のみ瓦葺**^{むね かわらぶき}とみられる。

塼列建物は蔵として使われることが最も多い建物です。しかし、飯盛城の塼列建物は耐火構造である蔵とするには次のような疑問があります。

- ・建物が**曲輪の端に近い位置**にある。
- ・**軒瓦の出土がなく**瓦は棟のみの可能性が高く、完全な**耐火構造でない**。

これらのことから、塼列建物は兵庫県置塩城^{おじおじょう}などで類例のある**櫓**^{やぐら}の可能性があると考えます。



図2 ^{せんれつたてもの} 塙列建物 (点線内が建物想定位置)



図3 ^{せんれつ} 塙列



図4 建物の可能性がある石組み



図5 石垣 89



図6 石垣 89 上部の城道

次に、塙列建物の北で検出した**石組み**は、塙列建物と同じ方向に配置しています。戦国城郭では^{そせきれつたてもの}**礎石列建物**や^{れきじきたてもの}**礎敷建物**と呼ばれる石組みの基礎構造をもつ建物があり、この石組みはそういった建物の一部である可能性があります。これらの建物は城郭では櫓であることが多いようです。ただ、平成28年度の調査ではこの建物の東から、神社などに類例があり特異な用途が想定できる**台付きの灯明皿**がみつかっており、**特殊な役割の建物**であった可能性があります。

4. 石垣と城道の調査

平成 29 年度調査時に周辺の分布調査を行ない、新たな石垣を発見したことから調査を行ないました。その結果、長さ約 11m、高さ約 2 m の**石垣**を確認し、その上には**道状の平坦面**が幅 1 ～ 2 m、延長 10m 以上にわたって存在し、部分的にその平坦面に**直交する**ように**石積み**が存在することが判明しました。道は地形に沿い傾斜をもっており、この石積みは傾斜部分が昇りやすいよう**階段状**にする意図があった可能性があります。

この道は、北は御体塚曲輪付近へと続いており、南は城内を下っていき山裾へと続くとみられ、城内を移動するための**城道**^{じょうどう}とみられます。

5. まとめ

このように、御体塚曲輪を中心に据えて調査を継続した結果、次のようなことがわかってきました。

- ・御体塚曲輪の上には、少なくとも**2 基の建物**があった可能性がある。
- ・2 基の建物のうち 1 基は**櫓**^{やぐら}の可能性がある。もう 1 基は神社社殿などの**特殊な用途**であった可能性がある。
- ・御体塚曲輪の付近は、東側尾根を中心とした一連の曲輪群に幾重にも**石垣**が取り巻き、そこを縫うように**城道**が通る壮大な曲輪群であったと考えられる。

今年度作成する総合調査報告書により、飯盛城内における御体塚曲輪の性格などを位置づけることができると考えています。



発掘で明かになった飯盛城

中 井 均(滋賀県立大学)

◆はじめに

- ・飯盛城の目覚ましい近年の研究成果 ⇒ 城郭史、文献史【仁木宏氏、天野忠幸氏、中西裕樹氏らの研究】
さらに小林義孝氏ら摂河泉地域文化研究所によって毎年開催される関西城郭サミット
- ・史跡指定を目指す総合調査の実施(2016年度～) ⇒ 大東市教育委員会、四條畷市教育委員会による発掘調査の成果【城の実態が解明できた最大の成果】

◆飯盛城の概要

- ・河内最大の山城 ⇒ 標高 314m の飯盛山に選地【河内を支配する権力としては最良の選地】
街道などを見下ろすといった軍事的要衝の地よりも支配地の背後に聳える山容が重要
さらには聖地としての飯盛山への築城という視点も看過できない ⇒ 葛城修験との関わり(中西裕樹氏)
- ・飯盛山の南北尾根に中心部を配置 ⇒ さらに中心部は巨大な堀切により南北に区画される【北部=防御空間(高櫓郭・本郭・Ⅲ郭・三本松丸・御体塚郭)、南部=居住空間(千畳敷)】
- ・東西に派生する尾根筋 ⇒ 数段の削平地を設けて曲輪とする【特に東側尾根には大規模な曲輪が階段状に配されている】
東尾根と西尾根に対する防禦力を当初から意識して配置されたものなのか ⇒ 石垣分布と併せて考える必要
- ・意外に使われていない堀切と土塁、そして不明瞭な虎口 ⇒ 石垣の導入イコール縄張りの先進性とは限らない

◆発掘調査の成果

- ・初めて入った発掘調査のメス ⇒ かつて飯盛城では古くに発掘調査が実施されていた【四條畷高校郷土クラブ】
- ・大東市教育委員会による千畳敷の発掘調査 ⇒ 土師質土器皿(かわらけ)の出土【居住空間を示唆】
- ・総合調査に係る発掘調査
大東市教育委員会の調査【千畳敷、南丸】
千畳敷の分厚い整地 ⇒ 山を切り盛りして築いた山城の造成の過程が判明
礎石と考えられる石材の検出 ⇒ 千畳敷での建物の存在がほぼ明らかに【山城に居住空

間を設ける】

★山城居住 ⇒ 摂津芥川山城の発掘調査では山頂の主郭から礎石建物が検出された【縁を持つ建物】

三好長慶の築城の特徴として捉えられるのか ⇒ 山麓居館と山上詰城という二元的構造が山上に一元化される

※近江清水山城や近江小谷城、近江観音寺城でも山上に巨大な礎石建物が検出されているが、これらの山城では山麓にも居館が構えられており一元化はされていない

曲輪端部の巨大な土坑 ⇒ 物見櫓の柱穴か

谷部に築かれた石垣 ⇒ 谷筋を階段状に加工した屋敷地？

★山麓に居館や城下町を持たない ⇒ 家臣団の屋敷地はどこに構えられていたのか【こうした谷筋に構えられた屋敷地が家臣団屋敷の可能性】

※近江観音寺城や播磨置塩城では山上に家臣団の屋敷が構えられている ⇒ 天空の都市

四條畷市教育委員会の調査【御体塚郭】

塼貼建物の検出 ⇒ 土蔵か堂か【極めて特殊な空間】

★塼貼建物 ⇒ 堺都市遺跡からは多く検出されている【町屋の土蔵】

戦国時代の城(山城・平城)からは播磨置塩城、播磨御着城、播磨感状山城、河内高屋城、摂津端谷城などで検出されている【倉庫】

出土遺物(高台付土師皿)からは仏堂も視野に入れて検討する必要 ⇒ 城内に設けられた宗教施設

曲輪中心部の岩盤 ⇒ 平坦に加工しない【曲輪を否定する構造:磐座】

★美濃岐阜城(峰の権現、烏帽子岩)、近江観音寺城(巨石、奥の院)

瓦の出土

★塼貼建物だけではなく ⇒ その他の場所からも一定量の出土があれば城内の建物に瓦が葺かれていた可能性も考えられる【石垣+瓦+礎石建物】

織田信長の岐阜城、安土城に先行する3つの要素(織豊系城郭)

◆最新技術を駆使した測量図と現れた石垣

・赤色立体地図の作成 ⇒ レーザーを照射して地表面そのものを測量する【見やすい赤色に着色することにより図化】

極めて微地形までもが表現される ⇒ 新たな曲輪や堀切などの発見に繋がる

★桜池西方の城郭遺構も見事に捉えている

・分布調査 ⇒ 飯盛山全体を対象とする【新たな石垣が大量に発見される】

ほぼ城域全体に石垣が築かれている ⇒ 安土城に先行する極めて重要な石垣

★15世紀後半から16世紀前半に列島のいくつかの地域で城郭に石垣が導入される ⇒ 信濃(松本周辺)、美濃、北近江、南近江、西播磨、東備前、北部九州

これらの石垣は高さ 4m に満たないし、城域の極めて限定された部分にのみ使用される

★城域全面を石垣とするのは近江観音寺城と飯盛城のみ

- ・石垣の構築技法 ⇒ 自然石を積み上げる【野面積み】(ただし粗割りしたと思われる方形材が一部見られる)、間詰をあまり用いない、垂直に近い法面、出隅に算木積みを用いない、根石を用いない等【織田信長の石垣技法とは異なる】

◆おわりに

- ・発掘された遺構や遺物の年代 ⇒ 永禄 3 年(1560)より永禄 7 年(1564)に居城していた三好長慶によるものか？
 - ※長い飯盛城の歴史 ⇒ 山城守護代木沢長政、河内守護畠山氏、安見宗房らが居城
さらに長慶没後には三好義継も居城としている(三好三人衆との戦いの場ともなる)
特に木沢長政は山城笠置山城、大和信貴山城、二上山城などを築く
- ★石垣の構築技術や出土した遺物から、三好長慶によって築かれた遺構と判断されるが、
今後は選別も重要な作業となる【現在認められる城跡の遺構は最終年代しか示さない】
- ・土の城の到達点としての石垣の城か ⇒ しかし縄張り構造はそう進化したものではない
【虎口をほとんど持たない、折などの横矢が掛からない、堀切がほとんど設けられない】
実は縄張りという視点からは発達した山城構造は認められない
- ・しかし、信長とは違う総石垣の城を創出 ⇒ 縄張りとは違うあり方で戦国の城とは一線を画した築城として評価
- ・戦国時代の「見せる」城 ⇒ 河内平野に屹立する山上が政治の場であった
- ・発掘によって飯盛城の実態がより明らかとなった ⇒ 国史跡に向けて大いに期待したい

飯盛城関連年表

1 5 3 0 (享禄3) 頃	細川晴元被官・木沢長政、飯盛城を居城とする。
1 5 3 1・3 2 (享禄4・5)	畠山義宣、木沢長政の飯盛城を攻撃。
1 5 3 6 (天文5)	木沢長政、飯盛城から信貴山城(奈良県平群町)にうつる。
1 5 3 7 (天文6)	木沢長政、畠山在氏を河内守護に擁立。飯盛城は守護所となる。
1 5 4 2 (天文11)	木沢長政、遊佐・三好・本願寺と戦い、太平寺(柏原市)で敗死。 ついで両軍が飯盛山麓で衝突。
1 5 4 3 (天文12)	木沢の残党、飯盛城から大和方面に退く。
1 5 5 1 (天文20)	安見宗房、河内守護代となり飯盛城に入城。
1 5 5 9 (永禄2)	安見宗房、高屋城に進出するが、長慶に攻められ飯盛城に退却。
1 5 6 0 (永禄3)	三好長慶、高屋城(羽曳野市)の畠山高政を破り、安見宗房 を追放して河内を占領。芥川山城(高槻市)から飯盛城に入る。
1 5 6 1 (永禄4)	三好長慶、飯盛城で連歌会(飯盛千句)を催す。
1 5 6 2 (永禄5)	三好長慶、飯盛城で安見宗房や根来寺衆を迎え撃つ。
1 5 6 4 (永禄7)	宣教師ヴィレラやロレンゾ、飯盛城で三好長慶の家臣73名 を洗礼。 三好長慶、飯盛城で弟の安宅冬康を殺害。 三好長慶、飯盛城で死去。養子の義継が家督を継ぐ。
1 5 6 5 (永禄8)	宣教師ルイス・フロイス、飯盛城を来訪。 三好義継、飯盛城から高屋城にうつる。
1 5 6 7 (永禄10)	飯盛城、三好義継に対抗する三好三人衆の手にわたる。
1 5 6 8 (永禄11)	三好義継、将軍足利義昭から飯盛城を安堵される。
1 5 6 9 (永禄12)	三好義継、飯盛城から若江城(東大阪市)にうつる。
1 5 7 4 (天正2)	飯盛城下で、明智光秀・佐久間信盛らの軍勢と三好の残党が 衝突。
1 5 7 5 (天正3)	織田信長、河内国内の城郭を破却。飯盛城廃城。

■用語解説

【城郭の施設】

^{くるわ}
曲輪：城郭における基本的な居場所。多くの場合内部を平坦化して、周囲に対しては防御施設によって守る。

^{おびぐるわ} ^{こしぐるわ}
帯曲輪・腰曲輪：この2つの言葉は厳密な意味での使い分けはないが、基本的に曲輪斜面にこれを囲うように長く設けられたものを帯曲輪、短くポイントに設置されたものを腰曲輪という。

^{るいせん}
塁線：土塁・切岸によって城域を遮断するラインのこと。

^{せきるい}
石塁：一般的には石垣のこと、但し内外面を石垣で構築した仕切り土手のことを呼んでいる。

【防御のための施設】

^{きりぎし}
切岸：曲輪斜面を防御するために人工的に加工を施した斜面を言う。

^{どるい}
土塁：曲輪の縁辺部に土盛をして防御壁とした施設のこと。

^{ほりきり}
掘切：尾根筋を分断する堀を言う。山の弱点となる尾根伝いに侵入する敵を防ぐために設けたもの。

^{たてほり}
竪堀：丘城・山城などの斜面に設けられた空堀で、等高線に対して直角に掘られた堀。

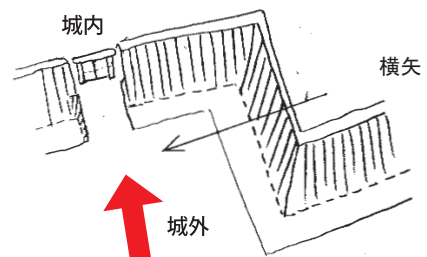
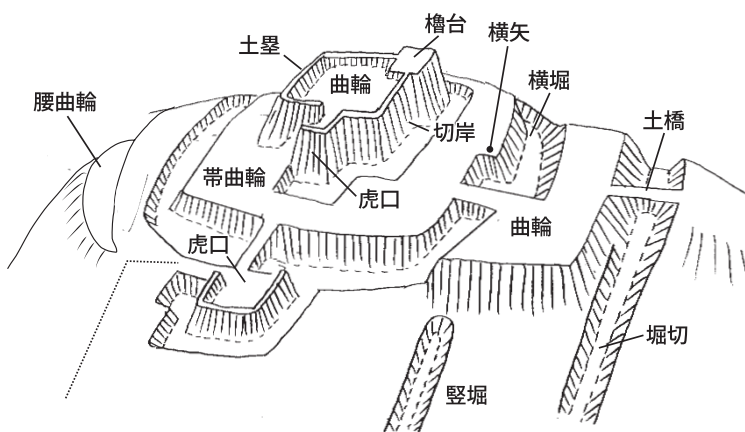
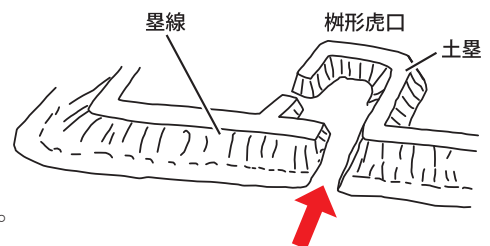
^{よこほり}
横堀：山城で曲輪の側面（斜面側）にも巡る堀のこと。発達したものでは城全体を囲み、城域を区画するものもある。

^{こぐち}
虎口：城の出入口とこれを守るための施設のこと。城では出入口を攻められることが弱点となるので、虎口と称して厳重に守った。虎口は単に出入口の門のみをいうのではなく、出入口の周囲の施設も含めて呼ぶことがある。

^く ^{ちが} ^{こぐち}
喰い違い虎口：守るための様々な工夫のうち、出入りする口を左右互い違いにしたもの。これによって城門の前で出っ張った側からの側射が可能になる。

^{ますがたこぐち}
枅形虎口：城の虎口的一种。城の出入口を二重の門と間に空間をもつことで守る虎口。2つの門の間の空間が四角い形をしていたことから枅形と呼んだ。

^{よこや}
横矢：城内に侵入する敵に対して、側面から攻撃することを可能にした守るための施設。図のように、虎口側面の曲輪を張り出せば、虎口に向かう敵を側面から攻撃できます。



【石垣】

あのうづ

穴太積み：城郭石垣に用いられた石垣技法、もしくはその技術のこと。

のづらづ

野面積み：自然石のみで積まれた石垣。

う

打ち込みハギ（接）：粗割した石材を積んだ石垣。

さんぎづ

ぐうかくぶ

算木積み：城郭石垣の隅角部の技法。長方形の石材の長辺を交互に積み上げるもので、隅角部の強度を維持することに有効であった。

つ

どんかく

シノギ積み：石垣の隅角部が直角ではなく鈍角になる積み方。この積み方では算木積み
が乱れることが多い。

かがみいし

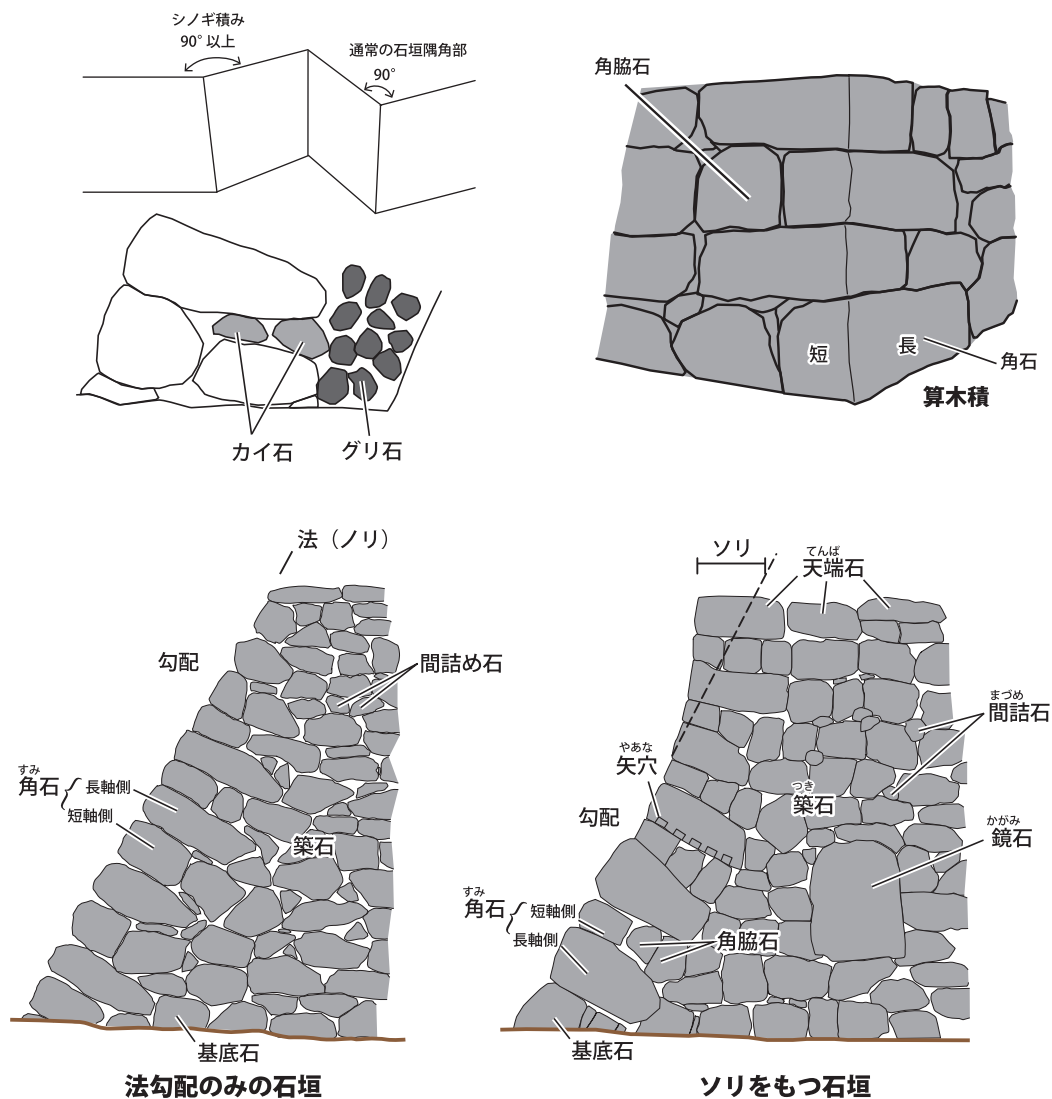
鏡石：石垣を見せるために、意図的に積んだ大きな石材。

のり

法（法勾配）：石垣の角度のこと。

やあな

矢穴：石材を矢で割る際に人工的に掘られた穴の痕跡。割石では穴の片方のみが残る。



石垣隅角部

国指定史跡 近畿地方の城郭

府県	種別	名称	所在地	指定年月日	備考
滋賀県	近世城郭	彦根城跡	彦根市金亀町・尾末町・城町	昭和26年6月9日	特別史跡
	山城	安土城跡	近江八幡市安土町下豊浦	大正15年10月20日	特別史跡
	山城	鎌刃城跡	米原市番場	平成17年3月2日	
	山城	観音寺城跡	近江八幡市・東近江市	昭和57年1月30日	
	山城	小谷城跡	東浅井郡湖北町・長浜市	昭和12年4月17日	
	山城	清水山城館跡	高島郡新旭町熊野本・安井川	平成16年2月27日	
	居館	京極氏城館跡	米原市弥高	平成16年2月27日	京極氏遺跡
	丘城	寺前城跡	甲賀市甲南町新治地区	平成20年7月28日	甲賀郡中惣遺跡群として一括指定
	丘城	村雨城跡	甲賀市甲南町新治地区	平成20年7月28日	
	丘城	新宮城跡	甲賀市甲南町新治地区	平成20年7月28日	
	丘城	新宮支城跡	甲賀市甲南町新治地区	平成20年7月28日	
	丘城	竹中城跡	甲賀市甲南町新治地区	平成20年7月28日	
	居館	下坂氏館跡	長浜市下坂中町	平成18年1月26日	北近江城館跡群として一括指定
	居館	三田村氏館跡	長浜市三田町	平成18年1月26日	
	山城	水口岡山城跡	甲賀市水口町水口	平成29年2月9日	
	山城	玄蕃尾城（内中尾山城）跡	福井県敦賀市刀根 滋賀県伊香郡余呉町	平成11年7月13日	福井県へも広がる
京都府	近世城郭	旧二条離宮（二条城）	京都府京都市中京区二条通 堀川西入ル二条城町	昭和14年11月30日	指定対象は離宮庭園
	山城	笠置山	相楽郡笠置町笠置山	昭和7年4月19日	指定対象は寺院
大阪府	近世城郭	大坂城跡	大阪府中央区大坂城	昭和28年3月31日	特別史跡
	山城	烏帽子形城跡	大阪府河内長野市喜多町	平成24年1月24日	
	山城	赤阪城跡	南河内郡千早赤阪村	昭和9年3月13日	
	山城	千早城跡	南河内郡千早赤阪村	昭和9年3月13日	
	山城	楠木城跡（上赤阪城跡）	南河内郡千早赤阪村	昭和9年3月13日	
兵庫県	近世城郭	篠山城跡	篠山市北新町	昭和31年12月28日	
	近世城郭	赤穂城跡	赤穂市上飯屋・上飯屋南	昭和46年3月31日	
	近世城郭	姫路城跡	姫路市本町	昭和3年9月20日	特別史跡
	近世城郭	明石城跡	明石市明石公園	平成16年9月30日	
	近世城郭	柏原藩陣屋跡	丹波市柏原町柏原	昭和46年1月6日	
	山城	利神城跡	佐用郡佐用町平福	平成29年10月13日	
	山城	黒井城跡	丹波市春日町黒井	平成元年8月11日	
	山城	此隅山城跡	豊岡市出石町宮内	平成8年11月13日	山名氏城跡として一括指定
	山城	有子山城跡	豊岡市出石町内町	平成8年11月13日	
	山城	洲本城跡	洲本市小路谷	平成11年1月14日	
	山城	白旗城跡	赤穂郡上郡町大富	平成8年3月28日	赤松氏城跡として一括指定
	山城	感状山城跡	相生市矢野町瓜生・森	平成8年3月28日	
	山城	置塩城跡	姫路市夢前町宮置・糸田	平成10年1月30日	
	山城	竹田城跡	朝来市和田山町竹田	昭和18年9月8日	
	山城	八上城跡	篠山市八上上	平成17年3月2日	
	山城	八木城跡	養父市八鹿町八木	平成9年3月6日	
	平城	三木城跡及び付城跡・土塁	三木市上ノ丸町	平成25年3月27日	
	平城	有岡城跡	伊丹市宮ノ前・伊丹	昭和54年12月28日	
奈良県	山城	宇陀松山城跡	宇陀市大宇陀春日	平成18年7月28日	
	山城	高取城跡	高市郡高取町高取	昭和28年3月31日	
和歌山県	近世城郭	和歌山城	和歌山市一番丁	昭和6年3月30日	

特別展『兵庫山城探訪』展示図録 2018 兵庫県立考古博物館提供、一部加筆・転載